

令和3年度「全国学力・学習状況調査」における春日井市全体の結果について

春日井市教育委員会

令和3年5月26日（木）に、小学校6年生と中学校3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の春日井市の結果の概要についてお知らせします。

なお、この調査の結果は、児童生徒の学力の一部であることをご承知おきください。また、この調査の詳細は、国立教育政策研究所のウェブサイト「全国学力・学習状況調査」により確認できます。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

1 小学校6年生

(1) 教科の状況

状況を見るにあたって、よくできている内容【○】と努力を要する内容【△】の一部及び今後の指導のポイントを紹介します。

【国語・小学校6年生】

国 語	状況	正答率：全国平均よりやや低い 分 布：上位層がやや少ない
	内容	○目的や意図に応じ、資料を使って話す。 ○思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う。 △目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける。 △目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。 △文の中における修飾と被修飾との関係を捉える。
	今後の指導のポイント	

・実生活において、児童が触れる文章には、図表やグラフなどを含むものが多い。そのため、指導にあたっては、そのような文章を読む際に、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにした上で、文章と図表などの関係を捉えて読むことができるようにすることが大切である。文章と図表などの情報を合わせて読むことで、内容についてより深く理解したり解釈したりすることができるようにする。その際、図表からも必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりすることが求められる。

・文章を要約するためには、目的に応じて文章全体から必要な部分を選び、内容を端的に説明することが大切である。その際、要約する分量などについても目的に応じて考えることが必要である。指導にあたっては、同じ文章を読んでも、読み手の目的によって内容の中心となる語や文は異なるため、要約した文章も異なるものになることを確認することが大切である。

・修飾と被修飾との関係に気を付けて、文の構成を理解することは、自分の思いや考えをより適切に表現する上で重要であることに気付くことができるようにする。指導にあたっては、修飾語には動きを表す語句を詳しくする場合と、ものや人などを詳しくする場合があることを理解できるようにする。そのためには修飾語を加えて文を詳しくしたり、修飾語がどの語句を詳しくしているのかをはっきりさせたりすることを指導すると効果的である。

【算数・小学校6年生】

算 数	状況	正答率：全国平均と同程度 分 布：全国平均とほぼ同様
	内容	○条件に合う時刻を求めることができる。 ○速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる。 ○棒グラフから、数量を読み取ることができる。 ○棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる。 △複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる。 △帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる。 △小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる。
	今後の指導のポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 図形の学習では、観察や構成などの活動を通して、図形を構成する要素などに着目して捉え、図形の計量について筋道を立てて説明することが重要である。例えば、三角形や平行四辺形の底辺と高さの関係の理解を確実にし、図形を構成する要素などに着目して、求積のためにどの部分の長さを測る必要があるかを考えることで、基本図形の面積を求める公式の理解を深め、活用できるようにすることが大切である。 ・ 複数のデータについて項目の割合を比較するために、帯グラフからそれぞれの割合を読み取ることができるようにする。また、各項目の特徴や傾向を読み取ることができるようにする。指導にあたっては、割合が同じくらいの項目や、割合が大きく違う項目を伝え合う活動が考えられる。その際、一つの項目から割合をそれぞれ読み取ることができるようにすることが大切である。また、帯グラフからデータの特徴や傾向を読み取るために、帯グラフのどの部分に着目したのかなどを説明できるようにすることも大切である。 ・ 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、整数を用いた倍の意味を捉え直して、小数を用いた倍についても、基準量を1としたときに比較量が幾つに当たるかという意味について理解できるようにする。指導にあたっては、例えば、72cmは30cmの何倍かを求める活動が考えられる。その際、72cmから30cmが幾つ分とれるのかを考え、はしたの部分が30cmを1としたときに幾つに当たるのかを考えることが大切である。 		

(2) 学習・生活習慣等の状況

状況調査を見るにあたって、学習・生活習慣等を「生活習慣」「学校・家庭での生活の様子」「自尊意識」「規範意識」「学習の様子」の観点から分析する。

全体の傾向（様子）のよい点【○】と改善が必要な点【△】及び学習・生活習慣等と教科の調査結果との関連について紹介します。

全体の傾向（様子）【小学校6年生】

【生活習慣】

- 朝食を毎日食べている。
- 同じくらいの時刻に寝起きしている。

【学校・家庭での生活の様子】

- 学校に行くのは楽しいと思う。
- 友達と協力するのは楽しいと思う。
- △新聞をあまり読まない。
- △地域の行事に参加していない。
- △地域や社会をよくするために何をすべきかあまり考えない。
- △学校の授業以外で、英語を使う機会があまりない。
- △新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じた。

【自尊意識】

- 将来の夢や目標を持っている。
- 自分でやると決めたことは、やり遂げる。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。

【規範意識】

- いじめは、どんな理由があってもいけない。
- 人が困っているときは、進んで助けている。

【学習の様子】

- 国語や算数の勉強は大切だと思う。
- 国語や算数の授業の内容はよく分かる。
- 国語や算数で学習したことは、将来、社会に出たら役立つと思う。
- 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。
- 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。
- 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。
- 学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。
- 道徳の授業では自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
- 友達と話し合うとき、友達の意見を最後まで聞くことができる。
- △国語や算数の勉強は好きではない。

学習・生活習慣等と教科の調査結果との関連

- ・ 普段、1日当たり、テレビゲームをする時間が短い児童の方が教科の正答率が高くなっている。
- ・ 学校が休みの日に、1日当たり、勉強をする時間が長い児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・ 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てを工夫して発表していた」と回答している児童ほど正答率が高くなっている。
- ・ 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答している児童ほど正答率が高くなっている。
- ・ 「学習内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答している児童ほど正答率が高くなっている。
- ・ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答している児童ほど正答率が高くなっている。
- ・ 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答している児童ほど正答率が高くなっている。
- ・ 「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えを持ったり、内容を解釈して、自分の考えを広げたりしている」と回答している児童ほど正答率が高くなっている。
- ・ 「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」と回答している児童ほど正答率が高くなっている。
- ・ 「算数の授業で公式や決まりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」と回答している児童ほど正答率が高くなっている。

対話をして自分の意見を積極的に表現すること、自らの学習を振り返り、整理することが学習面で良い影響を及ぼしています。価値観の多様化が進むこれからの社会を生き抜くためには与えられた問題を解くだけでなく、見方・考え方を働かせ、問題を解決していく力が求められています。

自分で課題を設定することなど、主体的な活動を進めるとともに、対話を通して自分の考えを深めたり表現したりする機会を増やしていく必要があります。子どもたち自身が、学ぶことの意義や楽しさを感じ取り、自ら学び続けようとする意欲をもつことが、より深い学びの実現につながります。そのためには家庭と学校が協力して、子どもたちのよさや頑張りをしっかり見取り、褒め、認めてあげることが大切です。

学校においては、授業、学校生活の中で、話し合う活動だけにとどまらず、課題解決のために、資料から情報を集め、自分の考えを整理して発表する機会を積極的に設けることに努めていきます。

新型コロナウイルス感染症の影響については、臨時休業中に勉強に関する不安を抱いていた児童が半数以上いたようです。自尊感情や将来の夢等に関する質問項目の一部で低下が見られており、新型コロナウイルス感染症の影響は、子どもたちの心理面に様々な変化をもたらしていると推測されます。学校では、これまで以上に子どもたちに寄り添い、学習面・生活面の支援に取り組んでいきます。

これからも引き続きご家庭でも、お子さまが主体的に学習したときは褒め、つまずいたときは励ましてあげてください。日頃から、その日のできごとを話題にして「どう感じた?」「どう考えた?」などの会話を通して、自分の思いや考えを伝える機会を増やしてあげてください。そうすることで自ら進んで学ぼうとする姿勢、対話を通して考えを深めようとする姿勢が向上していくと考えています。

2 中学校3年生

(1) 教科の状況

状況を見るにあたって、よくできている内容【○】と努力を要する内容【△】の一部及び今後の指導のポイントを紹介します。

【国語・中学校3年生】

国 語	状況	正答率：全国平均と同程度 分 布：全国とほぼ同様
	内容	○話合いの話題や方向を捉える。 ○質問の意図を捉える。 ○文脈に即して漢字を正しく読む。 △書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く。 △文脈の中における語句の意味を理解する。 △文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ。
	今後の指導のポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするためには、読み手の立場に立って文章を整えるように指導する。その際、表記や語句の用法、叙述の仕方、表現の効果などを確かめるように指導する。例えば、自分の考えを伝えたり、印象付けたりする上で、書いた文章の表現がどのように働いているかを確かめるなどの学習活動が考えられる。その際、自分が書いた文章を説明や具体例、描写などに着目して見直し、これらの表現が、自分の考えを明確に伝えるために機能しているか、どのような効果を生んでいるかなどについて検討し、その上で誤解のない表現やより効果的な表現にしていくように指導することが重要である。 ・ 文学的な文章を読むためには、言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、観点を定めて読むことが必要であり、そのことによって深い理解や感動が得られる。文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読み進めるように指導する。例えば、文学的な文章を読んで新しく出会った言葉を複数取り上げ、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を捉えるなどの学習活動が考えられる。その際、語句の意味について調べたことを記録したり、その語句を使った短文を作ったりするなど、実際の記事の中で使うことができるように指導することも重要である。 ・ 文学的な文章を読んで自分の考えをもつためには、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりするように指導する。その上で、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることで自分の考えを確かなものにするように指導することが大切である。 		

【数学・中学校3年生】

数 学	状況	正答率：全国平均よりやや高い 分 布：上位層がやや多い
	内容	<p>○与えられたデータから中央値を求めることができる。</p> <p>○問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。</p> <p>○与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。</p> <p>○ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる。</p> <p>△数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる。</p> <p>△事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。</p> <p>△データの傾向を的確に捉え判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。</p> <p>△ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見いだし、それを数学的に表現することができる。</p>
	今後の指導のポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ・数の性質について成り立つ事柄を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明できるように指導する。 ・日常的な事象における伴って変わる二つの数量について、観察や操作、実験などの活動から得られたデータを、表やグラフに表現することを通して、その二つの数量の関係を捉えることができるように指導する。 ・日常生活や社会の事象を題材とした問題などを取り上げ、統計的に問題解決することができるように指導する。その際、問題を解決するために計画を立て、必要なデータを収集して処理しデータの傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の活動を充実させることが大切である。データの分布の様子を捉える場面を設定し、データの傾向を的確に捉えて判断できるように指導する。 ・図形の性質を考察する場面では、観察や操作、実験などの活動を通して、予想した事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えることができるようにするとともに、条件を変えるなどして発展的に考察することができるようにする。条件を保ったまま動かした図形を観察し、辺や角について変わらない性質を見いだす活動を取り入れ、ある条件の下でいつでも成り立つ性質や関係を捉え、それを数学的に表現することができるように指導する。 		

(2) 学習・生活習慣等の状況

状況調査を見るにあたって、学習・生活習慣等を「生活習慣」「学校・家庭での生活の様子」「自尊意識」「規範意識」「学習の様子」の観点から分析する。

全体の傾向（様子）のよい点【○】と改善が必要な点【△】及び学習・生活習慣等と教科の調査結果との関連について紹介します。

全体の傾向（様子）【中学校3年生】

【生活習慣】

○朝食を毎日食べている。 ○同じくらいの時刻に起きている。

【学校・家庭での生活の様子】

○学校に行くのは楽しいと思う。 ○友達と協力するのは楽しいと思う。
○生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていた。
○友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができた。
△新聞はあまり読まない。 △地域の行事に参加していない。
△地域や社会をよくするために何をすべきかあまり考えない。
△各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動はあまり行わなかった。
△学校の授業以外で、英語を使う機会があまりない。
△新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができなかった。
△新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活が送ることができなかった。

【自尊意識】

○自分でやると決めたことは、最後までやり遂げる。 ○人の役に立つ人間になりたいと思う。
△将来の夢や目標を持っていない。

【規範意識】

○いじめは、どんな理由があってもいけない。
○人が困っているときは、進んで助けている。

【学習の様子】

○国語や数学の勉強は大切だと思う。
○国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
○学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。
○道徳の授業では自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組めた。
△国語、数学、英語の勉強は好きではない。
△国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていない。
△数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えない。
△英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができなかった。
△総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組むことができなかった。
△学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組むことができなかった。

学習・生活習慣等と教科の調査結果との関連

- ・普段、1日当たり、テレビゲームをする時間が短い生徒の方が教科の正答率が高くなっている。
- ・学校が休みの日に、1日当たり、勉強をする時間が長い生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てを工夫して発表していた」と回答している生徒ほど正答率が高くなっている。
- ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答している生徒ほど正答率が高くなっている。
- ・「学習内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答している生徒ほど正答率が高くなっている。
- ・「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えを持ったり、内容を解釈して、自分の考えを広げたりしている」と回答している生徒ほど正答率が高くなっている。
- ・「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしている」と回答している生徒ほど正答率が高くなっている。
- ・「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」と回答している生徒ほど正答率が高くなっている。
- ・「英語の授業では英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができた」と回答している生徒ほど正答率が高くなっている。

ここ数年の傾向として、規則正しい生活習慣が身に付いている生徒が多く、それが学習面にもよい影響を与えていることがいえます。自尊意識をもち、何事にも前向きに取り組んだり最後までやり遂げたりすることにより、学習成果も上がると考えられます。また、課題解決に向けて自ら考えて主体的に取り組む生徒は、学習面にもその力を発揮しているといえます。

価値観の多様化が進むこれからの社会を生き抜くためには、基本的な知識の定着だけでなく、他者との対話を通じて、多様な考えを取り入れ、思いや考えを積極的に表現し、自ら答えを導き出すような学力が求められています。自分で課題を設定することや自分の考えをまとめることなど、主体的な活動を進めるとともに、対話を通して自分の考えを深めたり表現したりする機会を増やしていく必要があります。

子どもたち自身が、学ぶことの意義や楽しさを感じ取り、自ら学び続けようとする意欲をもつことが、より深い学びの実現につながります。そのためには家庭と学校が協力して、子どもたちのよさや頑張りをしっかりと見取り、褒め、認めてあげることが大切です。

学校においては、引き続き組織的に授業改善に取り組み、ICT機器を有効活用しながら、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを進めることで生徒の学力の定着と向上に努めていきます。

新型コロナウイルス感染症の影響については、臨時休業中に勉強に関する不安を抱いていた生徒が半数以上いたようです。自尊感情や将来の夢等に関する質問項目の一部で低下が見られており、新型コロナウイルス感染症の影響は、子どもたちの心理面に様々な変化をもたらしていると推測されます。学校では、これまで以上に子どもたちに寄り添い、学習面・生活面の支援に取り組んでいきます。

ご家庭でも、学校での生活について積極的に話題にし、会話を通して、自分の思いや考えを伝える機会を増やしてあげてください。そうすることで自ら進んで学ぼうとする姿勢、対話を通して考えを深めようとする姿勢が向上していくと考えています。